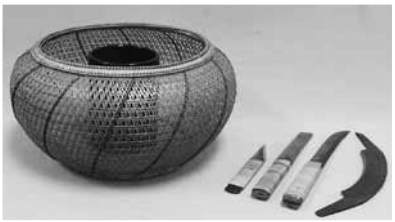
のアルバム

竹工作品と愛用道具を寄贈

竹工芸作家の杉田静山（すぎたじょうざん）さん（昭和７年～平成29年）の夫人である杉田昭子（しょうこ）さんより、多くの人に鑑賞いただき役立ててほしいとの思いから、歴史民俗博物館（銅鐸博物館）に作品10点と愛用の竹工芸制作道具を寄贈いただきました。

野洲市西河原に工房を構えて活躍された杉田さんは生前、滋賀県指定無形文化財保持者であり、晩年に旭日双光章（きょくじつそうこうしょう）を受章されました。その作品は、竹のしなやかさを生かした繊細さと優美さを兼ね備えた作風に特徴があります。



▼歴史民俗博物館

▲制作風景（昭和45年ごろ）

▼11月7日　市内店舗

地域の活性化「まちゼミ」

湖南四市あきんど連絡会主催の「得する街のゼミナール2019」が開催（11月1日～30日）されました。

この催しは、通称「まちゼミ」と親しまれ、商店主等が講師となり、その店が培ってきた専門的な知識の提供や求められる商品とサービス情報、商店での買い物の楽しさを体感する少人数形式の講座イベントです。

８年目の開催となる今年は、全88講座を実施。参加者からは、「このゼミで学んだことを実践していきたい。」「まちゼミがきっかけで新しいお店を知ることができて良かった。」という声が聞かれました。

ハロウィン オリンピック in やす開催！

野洲市国際協会のハロウィンパーティーが開催され、約90人が参加しました。今年のテーマは“ハロウィンオリンピック in やす”。聖火が灯され、市長の開会宣言の後、持ち寄りの多国籍料理やよさこい祇王の演舞を楽しみました。その後、子どもたちはチームに分かれてTrick or Treat！ニュースポーツに挑戦し、お菓子をもらいました。

仮装コンテストでは趣向をこらした仮装が勢ぞろい。それぞれ自慢の衣装を身に着け、披露してくれました。

「来年は選ばれたい！何の仮装にしようかな。」と今から楽しみにする子どももいました。

▼10月20日　コミセンきたの

歴史の小窓
―学芸員のメッセージ―

183

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

近畿式銅鐸と三遠式銅鐸

銅鐸は、主に吊り手（鈕）の形のちがいで４つの段階に大別され、最も新しい段階の銅鐸では、互いに独自の特徴をもつ二種類に分けられます。

一つは近畿地方を中心に分布する「近畿式銅鐸」で、もう一つは東海地方（愛知県東部の三河から静岡県西部の遠江）を分布の中心とする「三遠式銅鐸」です。

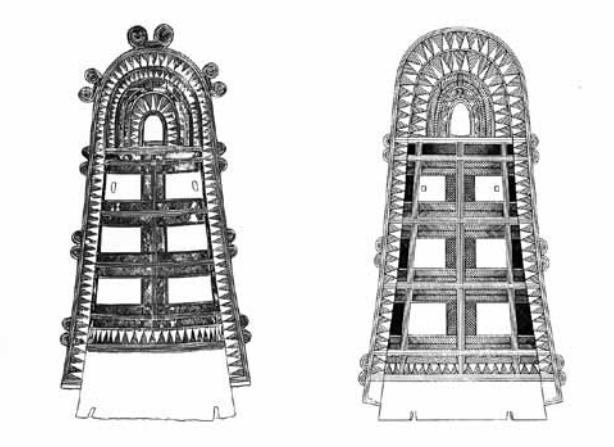
両者を見分ける特徴のいくつかを紹介しますと、まず前者は鈕の頂部と左右に渦巻き状の飾耳をもち、付け根には鈕脚壁という壁を有しています。後者は飾耳を持たず、本体部分を区画する軸状の太い線（突線）のうち、横軸の突線が鰭にまで及んでいる点などがあります。このように分布する地域や銅鐸の特徴に差異を認めることから、製作した工人が異なっていた可能性があります。

野洲市出土の大岩山銅鐸は、これらの両方が同一丘陵に一緒に埋められていたことや、最も大きなもの（日本最大銅鐸、高さ134.7cm）は、近畿式のなかに一部、三遠式の特徴が取り込まれている点など、とても興味深い銅鐸といえます。

弥生時代が終焉に向かっていくなかで、独自の特徴をもつ銅鐸、つまり、同じシンボルを持つ地域どうしがこれらを介して連合的な関係を構築していたとも考えられています。

近畿式銅鐸と三遠式銅鐸が現れ消えていく背景には、次の古墳時代への幕開けを考えるうえで、とても重要な意味が含まれているのです。

（博物館学芸員　角　建一）



近畿式銅鐸（羽曳野市西浦鐸：左）と
三遠式銅鐸（昭和37年出土大岩山９号鐸：右）
当館解説シートより転載

休館日：月曜日、12月28日㈯～令和２年１月４日㈯
※市民は入館無料
（運転免許証やげんきカードなどをご提示ください。）

100歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた寺田敏子さん（比留田）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正８年11月11日生まれの敏子さんは、相撲が好きで、大相撲の番組を楽しみにされています。

訪問したこの日は、誕生日当日。紅白饅頭に祝い鯛、赤飯などをご家族が用意し、盛大に100歳を祝福されていました。

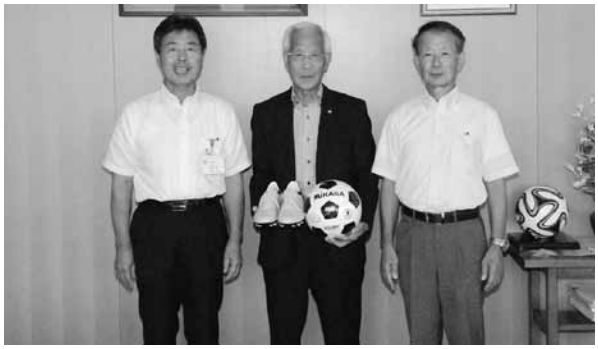
いつまでもお元気で。

▼11月11日　比留田

サッカー部で活用します

北脇助三郎さん（八夫）からサッカーシューズ（20足）とサッカーボール（10個）が寄贈されました。

北脇さんはサッカーの普及や育成に尽力され、「子どもたちがプレイする環境を整え、サッカーに触れる機会を増やし、技術向上はもちろん、思いやりと協調性を養って欲しい。」との思いからお申し出いただきました。

寄贈された備品は、野洲中学校と野洲北中学校の部活動で活用させていただきます。

▼10月４日　市役所